

第50号記念特集号

ときわ新潟江南

第50号
令和5年3月22日
発行責任者支部長
渋谷 徹
編集責任者中野 昭彦 目黒



【横越中のお宝】
新潟市出身の彫刻家 早川亜美の作品「希望と感謝の像」
※横越中学校正面玄関前に設置
【早川亜美代表作】
新潟県民会館の前にある「みちびきの像」
新潟地震の中、教え子27人を命がけて導いている教師の姿を表したもの



「ある人」の答え

支部長 亀田小学校
渋谷 徹 (昭和62年度)

2021年発刊『OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来』はお読みのことと思う。さて、皆さんなら「2030年、日本の教育はどのように変わるか」という問いになんと答えるだろう。「ある人」は次のように答えている。

予想することは難しいとは思いますが、今後の日本の教育には以下のような変革があるかもしれません。

- 1 テクノロジーの利用: 技術の進歩に伴い、教育においてもデジタル技術やテクノロジーがより普及することが予想されます。生徒はより効率的で魅力的な学習体験をすることができます。
- 2 クリエイティブ思考の育成: 複雑化する社会に

おいて、問題解決力や創造力が重要なスキルとなっています。これらのスキルを育成することが教育の一部となる可能性があります。

- 3 カリキュラムの変革: 社会が変革することに伴い、カリキュラムも変革することが予想されます。新たなスキルや知識が必要とされるようになり、カリキュラムを改定することが必要となるかもしれません。

ただし、これらはあくまで予想であり、本当にこのように変革が起こるかどうかは保証されませんが、将来を見据えた柔軟な準備が必要とされます。

「ある人」とは巷で話題のAI、ChatGPTである。冒頭の問いをこのAIのChatボックスに入れたところ返ってきたのが上の答えなのだ。恐ろしい時代である。私たちも変わらないわけにはいかない。変わらなければ淘汰されるに違いないからだ。AIのアドバイスに従い「将来を見据えた柔軟な準備」をしましょう。